

BIEN (The International Conference of Women Scientists and Engineers) 2017

防衛医科大学校 武井史恵

2017年8月31日から9月2日まで韓国ソウルのプラザホテルで行われた BIEN (The International Conference of Women Scientists and Engineers conference on BT, IT, ET and NT) は約50件の口頭発表と約450件のポスター、若手によるポスター87件があり、全参加者1000人を超える大きな国際会議でした。この会議の特徴は、女性が参加者の9割を占めるといふ、科学者や技術者の国際会議では考えられないような女性比率の高さです。また日本では、異分野の女性の研究者が一同に集まって発表を行うBIENに類する国際会議はほとんどありません。しかしこのBIENでは全く異分野の研究者がお互いの研究に関して議論している姿を何回か見ました。大学だけでなく、企業、公的な研究所の韓国の研究者・技術者が参加し、活発な議論が交わされていました。



BIEN2017 ロゴ入りの扇子

この研究発表と同時に次世代の女性科学者の研究発表、ワークショップも行われていました。若い女性科学者はアジア地域を中心として、各国から集まっていました。皆エネルギーに溢れ、次世代を担う科学者・技術者として十分な知識、経験そしてパワフルさを備えていました。

最終日には、MAPWiST (Mapping the Future of Women in STEM in Asia and Pacific Nation) と呼ばれる環太平洋・アジア地域における男女共同参画についての会議も行われました。ネパール、モンゴル、台湾、そして日本の4ヶ国の現状が発表されました。日本は、男女共同参画の点においてはこの4ヶ国の中では最低であり、いかに女性の社会進出が進んでいないかということを感じさせられました。各国の女性の社会進出の事情は少しずつ異なっており、ネパールでは女子教育が課題になっているようですが、日本の場合、大学を卒業した女性がどうしたら仕事を続けられるかという問題を抱えています。私はこの会議の中で、日本では2020年までに管理職の女性を30%にするという202030というプロジェクトがあることについて述べました。会議後、韓国のある先生が、『アジア地域は文化の影響が大きく、どの国も女性の進出は進んでいないのが現状』ということをお話してくださいました。たしかに女性の社会進出は、物理的な問題だけでなく精神的な問題も多く抱えていることに改めて気づかされました。この会議には若い人も参加しており、彼らは自ら集って女性の社会進出に向けてのサポート体制を作ろうとしています。どの国も男女共同参画に向けて試行錯誤しながらも歩みを進めていることが強く伝わった会議でした。